

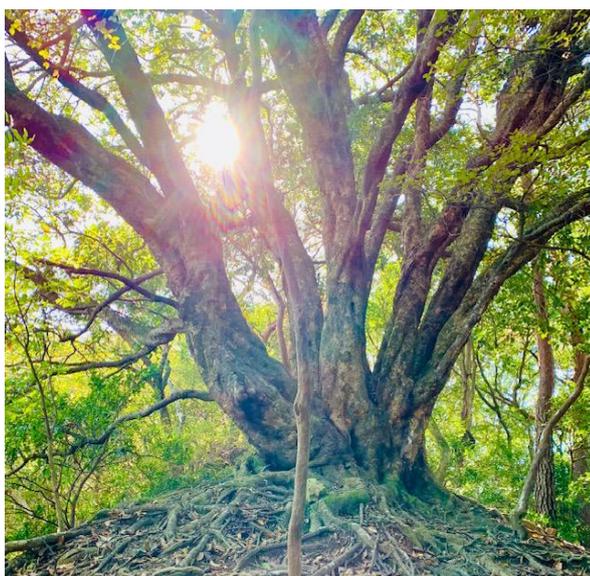
○10月25日(日)開催 第3117回例会
兵庫県山岳連盟同調 六甲山地その4・
「裏六甲・鬼ヶ島から逢ヶ山を訪ねる」の報告
兵岳連/普及委員長 吉野 宏

兵岳連普及委員会委員長として令和2年度の行事計画を企画提出したのが3月下旬。コロナ感染が大きく報じられ、一気に自粛や拘束が始まった矢先であった。登山関係にも何らかの自粛要請が出るであろうと予測、出来るだけ登山者の少ない目的地やコース・時間帯などを考慮し、六甲山地を5通り選んでシリーズの計画とした。

その1・穂高は自粛し延期。その2は降雨の為やむなく中止。今回は9月に行った摩耶山から夜景を楽しんだ行事に続くNo.4の行事であった。

神鉄有馬口駅9時集合。鬼ヶ島の名に興味を持たれたのか？それともマザーツリーのアカガシの木がお目当てなのか？は別として、絶好の登山日和に誘われて41名もの参加を得た。

鬼ヶ島のアカガシの木は、平成18年、六甲山が瀬戸内海国立公園に編入され50周年となった記念事業として一般登山者からも情報を募り、当時、森林整備事務所所長であった高橋敬三氏を中心に「六甲山地のマザーツリー20木」を選定した。その中のNo.2、幹周り6.25メートル、高さ19メートルもある立派な大木だ。



マザーツリー No2 のアカガシ木

鬼ヶ島は、大正年代の古地図には東鬼ヶ島と西鬼ヶ島に別れ明記されているが、尾根上の何処がピークなのか定かではない。奇妙な名は、唐櫃村のどこかから眺めると、いかにも鬼でも住んでいそうな島の様な形に見え、そんな名が付いたのだろうか。参加者が多かったので半数ずつの20名で写真に納まった。



アカガシをバックに



水無山(658m) から高尾山(739m) 経由で逢ヶ山(722m)へ登り返して仏谷峠へ下る計画であったが、多人数の為時間短縮し、深戸谷出合から仏谷峠へのショートカットコースを取った。従来倒木と笹藪で難儀なコースなのだが、唐櫃支部支部長で元下唐櫃森林組合長をされていた吉田進氏が我々の為に早朝より笹藪を刈りこみコースを鮮明にしてくれていて大変助かった。



逢ヶ山への急登にて

三等三角点のある山頂へは予定通り 12 時に到着。この場所も我々の為に刈りこんでくれていて、大変座りやすい昼食場所となっていた。



三等三角点のある山頂



アリマウマノスズクサの葉

逢ヶ山の名は平安時代から、戦を含むあらゆる情報の手段として烽火(のろし)を上げて対処した山であることからその名が付いたとのことであった。植物学者である牧野富太郎が命名されたと言われる「アリマウマノスズクサ」が多く自生し、「ヤマアジサイ」の株も所狭しと自生しているが、この山は上・下両唐櫃森林組合の所管する山でありむやみな入山は禁止とされているのでご注意願いたい。

下山コースは、逢山峡での沢登り起点となる東山橋を目指して降りた・・・。

計画通り、登り始めてから登山者に会ったのは 3～4 名のみであり、好天且つ穏やかな登山日和に恵まれた山行となった。

最後になりましたが、1 週間前の下見に同行下さった吉田支部長と林ネット代表委員に感謝を申し上げます。

天 候 晴れ

参加者 41 名 (内ヒヨコ会員 35 名)

写真提供 ヒヨコ旗振支部 勝田 徹 氏